

【活動レポート】若葉のふるさと協力隊(群馬県高山村)に参加して

5 日間で見てきた、私の未来



今回、私は初めて若葉のふるさと協力隊に参加した。農作業体験や地元の方々との交流をするものだと思っただけで漠然としか捉えていなかったのだが、いい意味で期待を裏切られた。

まず、村の景色や雰囲気に関してだが、高山村は見渡す限り大きな田んぼや畑というわけではない。住宅も多めで、小ぢんまりとしている。しかし、あらゆるところで様々な種類の農作物や花が育てられているので、見ていて全く飽きないのだ。

また、私がお世話になった農家の主人が舞茸を見せてくれたときに「芸術的だろう？」とおっしゃったことや、葡萄の作り方を教わったことで、農家の方がどれだけ食べ物を大切に育てているかが身に染みてわかった。枝豆の選別を手伝わせていただいたときにも、普段私たちの口に届くものはほんのわずかにすぎないのだと知って愕然とした。食べ物を大切にしなければならぬというのは、小さいころから教わる基本的なことだが、これほどまでに実感したのは、今回が初めてかもしれない。

特に印象に残ったのは荒木高山村前村長のお言葉だ。行政における都市と農村の関係性について、それぞれがお互いの良いところ、ないものを認め合い、尊敬しあう関係が大切だと述べられていた。これを聞いて、私は今まで頭のどこかでひっかかっていた何かがほどけたような気がした。というのも、私は以前から都市はもっと農業を大切にする立場でいてほしいと思いつけていたのだが、どうすれば都市が農村のような環境を受け入れられるのかが疑問だったのである。片方がもう片方の仕組みや方式を一方的に受け入れなければならないのではない。お互い協力することでお互いの状態を高めあうことができるのだ。今回の体験をもとに、私は都市側の若者として農村の魅力を発信していきたいし、農村にも都市の魅力を知ってもらいたい。私は、都市と農村を結び、お互いが win-win になるための懸け橋になって、さらにはそうした文化を日本の魅力として世界にも伝えたいと、今回若葉のふるさと協力隊に参加して思うようになった。

(国際社会学部 2 年 長谷川 祭)



日時: 2015 年 11 月 05 日